

# 西光寺だより

第六十二号 平成二十七年 十月一日発行

## ●今月のことば●

九月も終わり、だんだん寒い季節を感じる十月になりました。

九月の在家報恩講。親鸞聖人のご遺徳を偲ばせて頂きながら『正信偈』をお勤めさせていただきました。

そこで今月号からは、『正信偈』について学びたいと思います。

真宗門徒にとつて、もつとも身近なものである『正信偈』は、七言を一句とした百二十の句からなる偈(詩)です。『正信念仏偈』と言つても間違いではありません。『正信偈』は親鸞聖人の著書『教行信証』六巻のうち行文類の最後のところに記された偈文です。その冒頭、しかれば大聖(釈尊)の真言に帰し、大祖の解釈の閲して、仏恩の深遠なるを信知して、『正信念仏偈』を作りていわく(註釈版・二〇二頁)と制作した意図を述べられています。

そしてこの『正信』というのには正しい信心という意味であります。正しい信心とは、私たちが人間の力でおこす信心ではなく、阿弥陀如来がおこさせて下さった信心という意味です。如来さまのお呼び声を聞いて、私たちが自分のはからいをまじえず、疑いをさしはさまず、全てを阿弥陀如来におまかせしたのが信心です。そして信心をいただいた喜びのうえから、御恩報謝でとなえるのがお念仏です。したがって『正信念仏偈』は「正しく信じて、お念仏を称えて生きてゆく喜びの讃歌」であります。

そしてその『正信偈』にはどんなことが書いてあるのでしょうか。

それは釈尊の説かれた『仏説無量寿経』の教え、すなわち、阿弥陀如来の本願の教えと、その『仏説無量寿経』のお心について、インド・中国・日本の七高僧の方々が書きになった書物を導きとして、親鸞

聖人が、浄土真宗の教えの要点をお述べになつたのが『正信偈』であります。親鸞聖人は、自ら阿弥陀如来の救いを信じられるとともに、私たちに、どうか信じてくれよと、切なる願いを込めて呼びかけて下さっています。

そして、第八世の蓮如上人が『正信偈』に、親鸞聖人が和文のうたで念仏の喜びを讃えられた『和讃』を加えて、文明五年印刷され、日常の勤行用にご門徒に広められました。それ以後、浄土真宗のご門徒の方々に読誦され親しまれています。

そのお心を毎号少しずつ学びながら味わいたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

## ◆十一月の行事◆

十月 三日(土)

秋季永代経法要

午後二時・七時

西光寺本堂

◎御法話 本願寺派布教使

宮部 誓雅 師

十一月 二十三日(月・祝)

西光寺報恩講法要

午後二時・七時

西光寺本堂

◎御法話 本願寺派布教使

和氣 秀剛 師

## ◆先月の報告◆

①九月十七日（木）京都の大谷本廟にて、年に一度の西光寺での墓参を行いました。

みのり講と穂積講（上穂積の御門徒）の皆様とご一緒に、無量寿堂にて讚仏偈のお勤めをさせていただき、引き続き境内墓地のお墓で重誓偈のお勤めをさせていただきました。

お天気が少し良くありませんでしたが、皆さまとこうして墓参に来ることができましたこと大変ありがたく感じています。

そして、みのり講の当番の方には二年間大変お世話になりました。本当にありがとうございます。また、次の当番の方には二年間どうぞよろしくお願い致します。

②九月十九日（土）西光寺本堂にて仏教婦人会報恩講法要を厳修致しました。午後一時から正信偈のお勤めをさせていただき、その後正信偈行譜の唱え方として注意する所など、皆さまと共に学ぶ時間を過ごしました。



③八月下旬より西光寺境内にある外便所の工事がこの度終了致しました。総代様はじめ講員そして辻博建設様、皆さまの大変貴重な大きなご尽力のおかげにより完成することが出来ました。本当に皆様ありがとうございました。



合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>